

令和元年度 第1回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会
会議録

日時 令和元年10月21日(月)
午後3時から
場所 大宮盆栽美術館2階 講座室

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - (1) (仮称)盆栽文化普及サポーターの会の設置について 【資料1】
 - (2) 令和2年度大宮盆栽美術館の主な事業について
 - ア 展覧会事業等について 【資料2】
 - イ さいたま国際盆栽アカデミー外国人向け上級コースについて 【資料3】
 - ウ (仮称)大宮盆栽振興イベントについて 【資料4】
- 4 報告
 - (1) 令和元年度大宮盆栽美術館展覧会事業について 【資料5】
 - (2) 米国立盆栽・盆景園との姉妹館提携について 【資料6】
- 5 その他
- 6 閉会

【会議内容】

- 1 開会
進行：事務局
本日の出席委員は総数10名に対し、8名となっており、定足数を満たしていることから本日の会議が成立していることを報告。
会議の公開について、公開とする。なお、傍聴希望者は無し。
- 2 あいさつ
スポーツ文化局長 あいさつ
- 3 議題
 - (1) (仮称)盆栽文化普及サポーターの会の設置について
事務局から【資料1】を説明
委員長：アカデミー中級修了者はどんな活動をしているのか。
事務局：ワークショップの講師補助を中心に活動している。
委員長：ボランティアとアカデミー修了者を統合するとのことだが、ボランティアが携わっているガイドなどをアカデミー修了者にやってもらうことになるのか。
事務局：基本的に、統合後もガイドは今と同様にボランティアに担ってもらうことを想定している。
委員：ボランティアの地域に貢献したいというニーズと、アカデミー修了者のニーズは

違うのではないか。アカデミー修了者とボランティアとして活動したいと考えている人とのニーズをまとめようとする弊害が出るのではないか。

事務局：アカデミー受講者には、ボランティアとして活動したい、盆栽を極めたいなどいろんな思いの人がいる。それらの思いを汲んで進めていかなくてはならない。中級修了者とボランティアを同じ組織に統合するというこの趣旨に賛同し、参加希望する方を新たな組織中級修了者の会に参加してもらうよう調整していきたい。

委員：希望者がボランティアとして活動できる場づくりが大切であり、輝けるために組織を見直すとの基本的方向性は賛成。それぞれの思いを掘り起こしながらボランティアが輝けるように、丁寧にやっていただきたい。

委員：ボランティアかアカデミー修了者で区別することなく、スタートは完全に平等であるべき。得意な部分で自分を輝かせるためのサポートや、新しいアイデアが出てきたときに、館が主導して枠組みを提示して、枠の中でそれぞれの人が達成感を持ってやっていくという形に育てていくのがいいのではないか。

委員：その考えでやろうとするのなら統合すべきではない。中級修了者とボランティアのニーズが違う。

委員：中級修了者とボランティアのニーズの違いを解決しないで統合するとうまくいかない。個人個人が納得しないのではないか。

事務局：館内のガイドであっても、盆栽を育てるなど技術的な経験は必要。逆に盆栽を育てる技術があってもガイドをする上での知識や来館者との接し方などの経験も必要になる。

委員長：今2つのボランティア組織があるが、統合した場合、事務負担が増えるのではないか。

事務局：大きな負担にならないと思う。お互い重なってくる部分があるので、一緒に動くことにより美術館内だけでなく、美術館外でも活躍の場ができると思う。委員指摘の部分を配慮しながら統合していきたい。

委員：2つを統合するときに館の方針をよく理解してもらう必要がある。

事務局：アカデミー修了者とボランティアには主旨、過程等説明し、丁寧に進めていきたい。

委員：ボランティアは現状の活動で充分だと思う。アカデミーは何を目指しているのかははっきりしない。アカデミーが目指すところをはっきりさせた方がいい。

事務局：ボランティアとして館の事業に参加したい人もいれば、アカデミーで学んだ技術を盆栽管理に役立てたいと考えている人もいる。

事務局：今後を検討していく中で、事務局としては2つの組織を統合する方向で考えているが、統合するよりも2つあった方がいいとなるかもしれない。今後も様々なご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

委員長：今より強力なサポーターの会をつくる考え方で、検討を進めていくことでよろしいか。

委員：(承認)

(2) 令和2年度大宮盆栽美術館の主な事業について

事務局から【資料2】を説明

委員：アウトリーチ活動とは何か。Jリーグ公式戦で盆栽を展示したのか。

事務局：アルディージャと協力してアウェイ側サポーターに向けて盆栽を展示したり、ノベルティグッズなどを配布するところにより美術館を周知している。

委員長：来年度について、説明のとおり事業を実施することによりよろしいか。

委員：(承認)

事務局から【資料3】を説明

委員：海外盆栽学習機関には、どのようなものがあるか。

事務局：有名なところでは、アメリカには盆栽・盆景園がある。他にイタリアにはクレスピ盆栽、こちらは盆栽の大学と称している。ドイツには、日本人が講師として携わっている盆栽学習機関がある。その他のヨーロッパにも盆栽を展示している関連施設がある。

委員：それだけ盆栽関連機関があれば広く募集する必要がなく、どなたかに推薦してもらえれば、たった4人にこのような募集方法をとらなくてもいいのでは。この4人という受入れ人数の根拠は。

事務局：各盆栽園で同時に受け入れられる人数を想定すると、期間を3か月として10月から12月で2人、翌1月から3月までで2人、として4人が妥当と考えている。

委員：同時通訳はボランティアが対応するのか。

事務局：プロの通訳をお願いする予定である。

委員：受講者の日本での宿泊については個人で手配するのか。

事務局：宿泊の手配は受講生負担であるが、館として、手配を補助したいと考えている。

委員：受講するには相当な金額を負担することになると思われるが。

委員：個人ではなく、職場から出張、派遣という形で来てもらうことを想定しているのか。

事務局：海外の盆栽学習機関に調査をしたところ、アカデミー受講を想定できる人が何人かいるとの話しを受けている。機関からの推薦という形が取れるようであれば、館として歓迎すべきことだと思う。

委員：受講生募集にSNSを活用とあるがどう活用するのか。アカデミー修了後にさいたままでこんな勉強してすごくよかった旨を発信してもらった方がいい。広く呼び込むというより、ピンポイントで狙った方がいいのではないか。情報発信とは何の情報発信するのか。

事務局：受講生確保のための情報の発信。今年度でHPの改修でアカデミーのページを設けたい。日本で盆栽を学びたいという海外からの問合せもあるので、広く発信することが大切だと考えている。

委員：SNSを否定しないが、情報を統制した方がいい。ピンポイントで連絡できる機関があるなら、何ができるのか事前にすり合わせておいた方がいい。

事務局：どのようなカリキュラムなら来日するのか。母国で学べることに加えて、アカデミーで厚みを持たせる内容にしたい。広く告知することにより応募が殺到した時の対応などの懸念もあるため、情報発信の仕方を考えなければならない。

委員：定員以上の応募があった場合はどうするのか。

事務局：講師と調整の上、応募者の需要に可能な限り応えたいと考えている。

委員：もし多く来た場合、どうやって選考するのか。ひとり30万円の受講料、40日間講義を受けて、通訳を付けてとなると採算を取れるのか。

事務局：選考基準については、現在検討中。30万円の根拠は、講師代、素材代としている。通訳などの人件費は、アカデミー以外の予算での対応になる可能性もある。

委員：受講料以外の収入は考えられるのか。

事務局：アカデミーについては、原則受益者負担と考えている。通訳費については、40日間全てという訳ではなく、重点的な日にだけ通訳を配置することを考えている。アカデミー上級コース受講希望者のニーズを聞きながらカリキュラムを構成したい。

委員：日本人向け、在住外国人向け上級コースを現在開講しているが、受講後にどんな活躍をしていくことになるのか。外国人向け上級コースが始まるが、どのような活動になるのか楽しみ。いつから募集をかけるのか。

事務局：外国人向け上級コースの募集時期については、市議会で予算が承認されれば、来年度当初から募集を始めたい。在住外国人向け上級コースはこれから募集をかけて1日限定で実施予定。日本人向け上級コース修了者の活動の場として、ギャラリートーク、定例の盆栽ワークショップの講師、盆栽村の案内役、盆栽園の盆栽管理など募集要項にうたっている。

委員：日本人向け上級コース修了後は、サポーター活動ができるとうたっており、サポーターの会の問題と直結してくるので、活動内容について具体的な検討が必要。外国人向け上級コースは美術館本体の運営費を圧迫しないようお願いしたい。修了試験については、受講者にプレゼンテーションしてもらおうなどするとうたいのではないのか。

事務局：受講者によるプレゼンは面白いと思うので検討したい。

委員：在住外国人向け対象者が日本人向けの講座に参加してもいいのか。

事務局：過去に日本人向け初級コースに、日本人の通訳といっしょに外国人が参加した例もある。

委員：在住外国人、日本人といった名称が誤解を招くことがある。

事務局：コース設定については、当初の計画に基づき実施している。実際に実施していく中でいろいろな課題が出てきているので、今後コース設定について考えなければならぬ。

委員長：説明のあったとおり事業を実施することでよろしいか。

委員：(承認)

事務局から【資料4】を説明

委員：世界盆栽大会が賑わったことを踏まえてのイベントだと思う。コンセプトの収益拡大、販路拡大、デモンストレーションなど発展的な企画はあるのか。見本市ではないが、海外からのお客さんや業者が来てビジネスにつながるようなことをやらないのか。

事務局：東京2020大会の時期に開催することを前提に、ターゲットとしては、観客やメディアを想定している。場所は盆栽村。盆栽市には大盆栽まつりのようなものをイメージしている。1回だけでなく盆栽村開村100周年の年に開催するなど今後発展させていきたい。

委員長：シンポジウムなどはやらないのか。

事務局：ホテルでシンポジウムをやって、盆栽の展示などは新都心駅などを会場にして、

東京2020大会の観客等に見てもらふことはできると考えている。

委員：会場が決まっていないのなら、早めに確保した方がいい。

委員：市民の方がどれだけそのイベントを知っているか。一部の人だけが盛り上がっているイベントではなく、市民の人が入っていけるものを作っていけないといけない。

事務局：市民に対して、イベント等の知名度アップを図っていききたい。

委員：ただ盆栽を展示するだけでなく、「ちょっと格が違う。」といった演出が必要。バスケットに夢中の客の目を奪うものを展示してもらいたい。

委員：イベント名には、ぜひいいネーミングをつけてほしい。国際芸術祭とどのようなコラボをするのか。現代アートとどのようにコラボするか。イベントの前だがそのことを見据えてほしい。

事務局：芸術祭のサブ会場として美術館で何ができるか検討が始まったところである。何らかの作品を美術館に展示できればと考えている。

委員長：(仮称)大宮盆栽振興イベントについては、説明した内容を前提に進めることでよろしいか。

委員：(承認)

4 報告

(1) 令和元年度大宮盆栽美術館展覧会事業について

事務局から【資料5】を報告

事務局：春季特別展については、時季が春ということもあり梅や桜の盆栽を中心に考えており、今までにない盆栽の世界観を演出したい。開花調整等難しい点もあるが、ぜひ課題に挑戦して国風盆栽展に負けない評価をいただけるよう努力していきたい。

(2) 米国立盆栽・盆景園との姉妹館提携について

事務局から【資料6】を報告

事務局：8月5日に現地で姉妹館提携の調印を行った。今後の提携については両者で運営委員会を作って検討していくことになっている。

5 その他

事務局：次回運営委員会の日程は、来年2月末から3月の間で開催することを考えている。正式に決まったら改めてご連絡する。また、明日は、即位礼正殿の儀の慶祝事業として、観覧料が無料になる。

6 閉会